令和２年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム　報告書

団体名　山陽小野田市国際交流協会　（都道府県：山口県）

１．当該地域の情報　（令和　3年　1月現在）

地域の課題	本市は平成17年に小野田市と厚狭郡山陽町の一市一町が合併してできた市である。現在、旧小野田市地域（以下、小野田地区）に日本語教室が一つあるが、旧山陽町地域（以下、山陽地区）には設置されていない。本市の外国人住民は市内に散在しており、日本語学習希望者が市内唯一の教室へ通おうにも、曜日や時間帯、場所、交通手段などの問題で通えないことも多い。また、小野田日本語教室の日本語学習支援者も高齢化が進み、新たな支援者の確保も困難になっている。
在住外国人数 外国人比率	山陽小野田市人口　61,496人 外国人人口　793人 比率　1.28%
在留外国人の状況	【主な国籍】　韓国（289人）、ベトナム（184人）、中国（133人）、インドネシア（50人）、フィリピン（34人） 【在留資格】　特別永住者（294人）、技能実習2号ロ（201人）、永住者（57人）、技能実習1号ロ（56人）、特定活動（44人） 【滞在年数・在留期間などの状況】　永住者や特別永住者が多く、住民となってからの年数がかなり長い人も多い。技能実習生も多く、数年で入れ替わりが激しい。
在住外国人の日本語教育の現状	本市の外国人住民のうち半数は、現在は特別な日本語教育をほとんど要さないオールドカマーが占めているが、日本の国際化が進むにつれて、本市でも外国人就労者や技能実習生、国際結婚で来日した配偶者、外国につながる子供たちが増えており、日本語学習の需要が高まってきている。義務教育機関に属する外国に繋がる子供のうち、入学時に日本語学習未習の児童・生徒については、学習支援ボランティアが配置されることがあるが、体制は十分ではない。高校生や大学生、技能実習生は必要に応じて所属機関で、日本語研修を受けている人もいるが、対応が十分ではないところもある。小野田地区に市内唯一の日本語教室があり、ボランティアによる支援者で運営されている。日本語学習を希望する人なら誰でも受け入れ、学習支援や国際交流を行っている。しかし、教室の存在をそもそも知らない、知り得ても通えない学習希望者も多く、通えていても支援が十分ではないことも多い。ここ数年、教育機関や企業、日本人の配偶者や外国に繋がる子供たちの保護者から、学習相談を受けることも多くなり、需要が高まっていることが伺える。同教室には山陽地区からの学習者も訪れている。 COVID-19感染症予防のため、2020年3月頃からは外国人等の所属機関や公共施設が利用一時休止や利用制限などがあり、社会活動だけでなく、日本語学習支援や交流活動が以前よりさらに外国人等に支援が届きにくくなっている状況である。

２．事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	市内、特に山陽地区に散在する外国人住民のために、日本語学習や地域の人たちと交流する機能を備えた日本語教室を開設し、地域社会からの孤立化を防ぎ、多様な背景を持つ人が安心して、楽しく生活できる多文化共生のまちづくりを目指すことを目的とする。
事業の概要	昨年度の活動を踏まえ、今年度はプレ教室開催に向けて以下の活動を行った。実施に当たっては、COVID-19感染症予防対策を取った。 ①状況把握・ニーズ調査 ・昨年度のアンケート調査結果を分析し、回答内容から対象者を抽出して、インタビュー調査を行った。 　インタビュー対象者：外国人等の属性別（年少者・家族滞在者、就労者等）からそれぞれ2～3名ずつ 　　内容：学習者の日本語学習の状況や生活情報、学習目標など調査紙で聞き取りにくかった部分のフォローアップ ・市内全域で法人向けアンケート「外国人等就労者に対する日本語教育についての意識調査」を取った。また技能実習生を受け入れている実習実施者や監理団体については、優良な実習実施者及び監理団体の評価要件に日本語学習支援が入っていることを認識しているか、そのためにどんな工夫をしているか等聞き取りを行った。 ②在住外国人等及び地域住民への広報活動及びイベント ・コミュニティラジオでの広報活動。 ・多文化共生講座～外国人の病院に付き添う時～の実施を予定していたが、本市でCOVID-19感染症のクラスターが発生したため、来年度に見送ることとした。 ③日本語学習支援者の育成 ・日本語学習支援者向けの「入門講座」、「フォローアップ講座」を行い、学習支援者の発掘・募集と同時に継続的なサポートを行った。 ④プレ講座の開催 ・来年度の定期開催へ向けて、プレ教室を開催した。
事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月
前年度の実績（２年目以降の団体のみ記載）	先進地（江田島市・総社市）の日本語教室を視察し、教室の運営方法や、コーディネーターや職員の役割分担などについて意見交換をすることができ、これから本市山陽地区に新教室を作る上での参考になった。また、日本語学習支援や地域住民同士の交流などに対する意識を検証するためにニーズ調査を実施した。調査結果から、外国人等は時間や場所、内容など都合が合えば日本語教室に行ってみたいと思っている人が多いこと、日本語教室や国際交流に関わってみたいと思っている地域住民が多くいることなどが明らかになった。多文化共生サポーター講座、やさしい日本語講座などを実施し、地域住民の意識啓発や人材発掘に繋がった。そのイベントの参加者らに外国人住民のための冠婚葬祭マナー講座、市協会のバスツアーや世界の料理教室等のイベントを案内し、外国人等と交流を持つ機会を提供できた。1年目はプレ教室開催に向けての下地作りをすることができた。

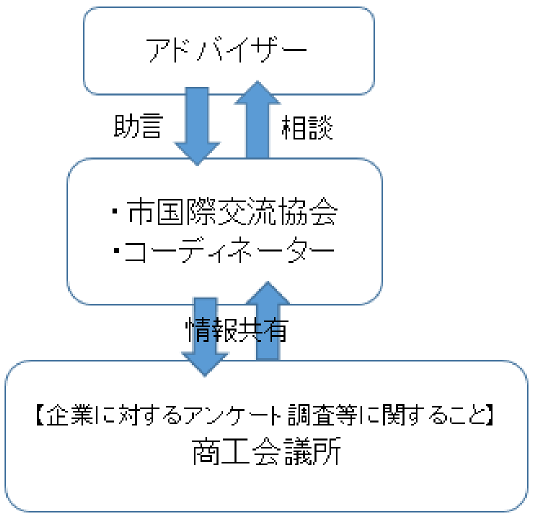
	氏名	所属	職名	担当する役割
担当コーディネーター	芝﨑　理恵	小野田日本語教室	代表・講師	ニーズの把握や関係機関との調整、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成
	當房　詠子	にほんご多文化ひろば（下関）	講師	人材の養成・研修の企画・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成

	氏名	所属	職名	継続・新規の別
担当アドバイザー	井上　洋	（一財）ダイバーシティ研究所	参与	継続（2年目）
	堀　永乃	（一財）グローバル人材サポート浜松	代表	継続（2年目）
	仙田　武司	（公財）しまね国際センター	課長	継続（2年目）

３．日本語教室の設置に向けた検討体制

（１）地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制

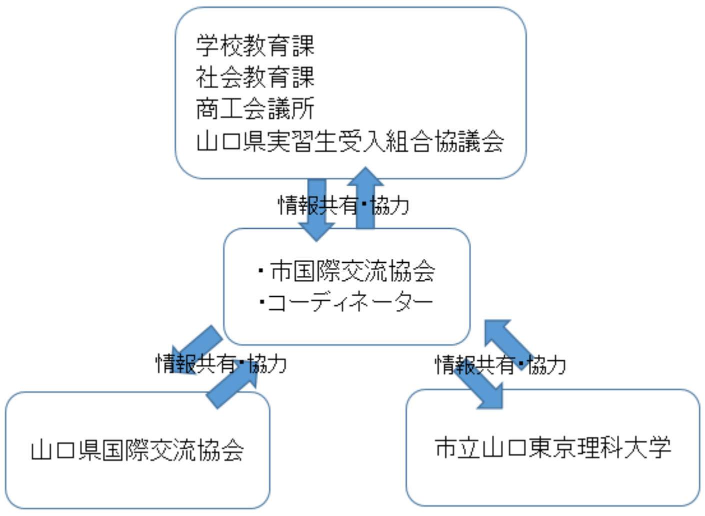


市協会、コーディネーターを中心として、外部有識者であるアドバイザー助言のもと、地域における日本語教育の実施に向けた検討を行った。地域総合経済団体として企業の発展と地域産業の振興を図るために活動している商工会議所にもアンケートや聞き取り調査などに協力いただき、日本語教育実施に向けて取り組んだ。

所属（担当課）	担当者名	職名
コーディネーター	芝﨑　理恵	－
コーディネーター	當房　詠子	－
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民活動推進課）	木村　清次郎	事務局長
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民活動推進課）	中村　扶実子	事務局員
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民活動推進課）	田島　優希	事務局員
山陽商工会議所	田中　剛男	会頭

（２）日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制



市協会とコーディネーターを中心として、アドバイザーの助言を得ながらプレ日本語教室の開催に向けて活動を進めていった。アンケートやニーズ調査などの調査依頼や、地域住民や外国人住民へ向けての情報発信については商工会議所と連携を図った。市内唯一の大学である山陽小野田市立山口東京理科大学には、講座実施に向けた講師派遣やサポーターとしての学生派遣、通訳翻訳等での連携を検討していたが、市内でCOVID-19感染症のクラスターが発生したため来年度へ開催を見送った。山口県国際交流協会とは、情報共有、日本人向け・外国人等向けの講座共催、日本語学習支援の広報活動などの面で連携を図った。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
山陽小野田市立山口東京理科大学	－	学長	望月　正隆
山陽商工会議所	－	会頭	田中　剛男
小野田商工会議所	－	会頭	藤田　敏彦
教育委員会事務局（学校教育課）	－	－	－
教育委員会事務局（社会教育課）	－	－	－
山口県国際交流協会	－	主任	田中　沙織
山口県国際交流協会	－	地域日本語教育総括コーディネーター	淺田　岐依
山口県外国人技能実習生受入組合連絡協議会	－	会長	西山　一夫

４．具体的な取組内容

（１）年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月	・担当者・コーディネーター顔合わせ及び今年度活動内容について打合せ ・前年度法人向けアンケート集計 ・今年度法人向けアンケート作成	・前年度の振り返り及び今年度活動内容について検討した ・前年度の法人向けアンケートを集計し、今年度引き続き実施した法人向けアンケートの内容について検討した	
令和2年 5月	・前年度法人向け・外国人アンケート集計 ・法人向けアンケート作成 ・事業計画書案作成 ・大学等オンライン講座視聴	・前年度の法人向け・外国人アンケート集計結果を分析した ・今年度の法人向けアンケートの内容を検討し作成した ・事業計画書案の内容を検討し作成した ・大学等オンライン講座視聴し、COVID-19禍で対面講座ができない場合の日本語学習支援について知見を得た	
令和2年 6月	・事業計画書案作成 ・コミュニティラジオ出演（新教室設置の広報活動） ・山口県国際交流協会と今後の連携について話し合い	・事業計画書案の内容を検討し完成させた ・コミュニティラジオに出演し、新教室設置の広報活動を行った ・山口県国際交流協会と今後の連携について話し合った	
令和2年 7月	・法人向けアンケート作成	・今年度の法人向けアンケートの内容を再検討した	
令和2年 8月	・昨年度アンケート結果の分析 ・第1回アドバイザー会議（今年度活動内容の検討） ・法人向けアンケート作成	・昨年度アンケート結果を分析した ・第1回アドバイザー会議を実施し、COVID-19禍における今年度活動内容を再検討した ・法人向けアンケートを完成させた	★（オンライン会議） 事業計画書について検討
令和2年 9月	・コーディネーター会議（多文化共生講座打合せ、法人アンケート内容検討、関係者会議内容検討） ・他市オンラインシンポジウム視聴	・コーディネーター会議を実施し、多文化共生講座、法人向けアンケート内容の最終確認、関係者会議の内容を検討した ・他市オンラインシンポジウムを視聴し、知見を得た	
令和2年 10月	・多文化共生講座～日本語学習サポート～運営事務 ・実施団体情報交換会出席 ・オンライン日本語教育学会パネルディスカッション視聴	・多文化共生講座～日本語学習サポート～の開催にあたり運営の調整を行った ・実施団体情報交換会に出席し、他団体と情報交換を行った ・オンライン日本語教育学会パネルディスカッションを視聴し、知見を得た	
令和2年 11月	・多文化共生講座～日本語学習サポート～運営事務	・多文化共生講座～日本語学習サポート～の開催にあたり運営の調整を行った	
令和2年 12月	・多文化共生講座～日本語学習サポート～運営事務 ・プレ日本語教室開催準備（チラシ作成）	・多文化共生講座～日本語学習サポート～の開催にあたり運営の調整を行った ・プレ日本語教室の開催準備、調整を行った	
令和3年 1月	・コーディネーター会議（プレ日本語教室活動内容について検討、関係者会議について検討） ・プレ日本語教室運営事務	・コーディネーター会議を開催し、プレ日本語教室及び関係者会議の内容を検討した ・プレ日本語教室の開催準備、調整を行った	
令和3年 2月	・第2回アドバイザー会議（今年度の活動の評価と課題） ・プレ日本語教室運営事務 ・事業報告書の作成	・プレ日本語教室の開催準備、調整を行った ・今年度の事業内容を振り返り、今後の教室運営について検討した	★（オンライン会議） ・今年度の事業内容及びプレ教室の振り返り ・今後の日本語教室定期開催に向けての検討
令和3年 3月			

（2）立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	プレ日本語教室 in 山陽		
外国人参加者について	第1回　計9名 ベトナム4, インドネシア3, フィリピン1, アメリカ1 第2回　計6名 インドネシア4、フィリピン1、中国1	参加者数 （内 外国人数）	第1回　参加者合計28名 内外国人9、日本人19、 日本語指導者1、サポーター3、市協会事務局員3 第2回　参加者合計22名 内外国人6、日本人16、 日本語指導者1、サポーター2、市協会事務局員3
開催時間数	総時間2時間20分	内訳　70分　×　2回	
目標	「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」を参考にし、行動・体験中心の活動を行い、対話による相互理解の促進を図った。		

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2021年1月24日 （日曜日）	1:10	厚狭地区複合施設第2研修室	9名	知り合う	知り合いになりましょう！ ・標準的カリキュラム「（31）人と付き合う、（44）余暇を楽しむ」を参考にし、自己紹介や余暇の過ごし方について対話活動を行った。 ・本市の観光地について理解を深め、ビンゴ大会を行った。	ボランティア19名、 日本語指導者1名、 サポーター3名
2	2021年2月13日 （土曜日）	1:10	厚狭地区複合施設第2研修室	6名	相談する	困っている時、どう話すか学びましょう！ ・標準的カリキュラム「（04）事故に備え、対応する、（05）災害に備え、対応する」を参考にし、困った時に日本語でどう相談するか、どう対応するか、対話活動を行った。 ・外国人参加者の国の伝統文化である中国の旧正月春節について理解を深めた。	ボランティア16名、 日本語指導者1名、 サポーター2名
3							
4							
5							

【主な活動】

プレ日本語教室の様子。

プレ日本語教室のグループ活動の様子。

中国の旧正月”春節”について紹介するコーディネーターと学習者。

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	前年度及び今年度実施したアンケート結果や他教室の事例を参考にし、プレ教室を2回実施した。プレ教室はCOVID-19感染症予防対策のため、予定時間90分から70分と時間短縮をして実施した。本市でもクラスターが発生すれば対面での教室開催が難しくなるため、オンラインでの開催を検討する必要があるが、オンライン開催前に支援者側のトレーニングが必要である。今年度のプレ教室の開催にあたって、日本語指導者とコーディネーター、市協会担当者で実施内容を決めたが、今後は学習者・ボランティアの意見やアイディアを積極的に取り入れ、教室に関わる人みんなで教室運営の役割分担をしていき、よりよい教室運営がよりよい地域づくりに繋がるように工夫する必要がある。

（３）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
コミュニティラジオ出演	令和2年6月25日 12：30～13：00	本市のコミュニティラジオ（FMサンサンきらら）に出演し、本事業や、市内の外国人等の状況、新日本語教室開設について等について紹介し、広報活動を行った。 出演者：芝﨑コーディネーター及び市協会職員
多文化共生講座 ～日本語学習サポート～	令和2年10月～12月 （全3回 合計6時間）	“やさしい日本語”を使って、自身の日本語を調整しながら分かりやすく伝えたり、日本語を学ぶ人たちのことばをしっかりと“傾聴”することなど、日本語を学ぶ人たちとの接し方や話すときのポイントを講義した。 講師：當房　詠子コーディネーター 令和2年10月10日　第1回　日本語学習サポートとは？ 令和2年11月28日　第2回　「はじめまして！」「週末はどこへ行きますか？」～日本語を学ぶ人と初めて話す際のポイントについて～ 令和2年12月12日　第3回　「事故が起きたら？「災害が起きたら？」～日本語学習者へのサポートのポイントについて～
スマイル音楽まつり FMサンサンきらら サテライト放送出演	令和2年11月22日 12：30～13：00	本市のまちづくりに尽力しているスマイルプランナーを30分交代で紹介するラジオ番組に参加し、本事業や、市内の外国人等の状況、新日本語教室開設について等について紹介し、広報活動を行った。 出演者：芝﨑コーディネーター
令和2年度地域日本語教育推進事業 「日本語ボランティアスキルアップ講座（オンライン）」 山口県国際交流協会主催	令和3年1月29日 19：00～20：30	2021年1月8日に山陽小野田市で開催を予定していた「日本語ボランティアスキルアップ講座」（大雪により中止）を県協会と協力しオンラインで実施した。 講師：東亜大学 准教授 金丸巧 方法：Web会議システムZoom 内容：日本語学習支援での学びのデザインを考えた。自分たちの今までの活動を振り返り、具体的な事例を参考にしながら、学習者と支援者がともに創る「学び」と「支援の方法」について考えた。 対象：外国人住民への日本語学習支援に携わっている方

【主な活動】

多文化共生講座～日本語学習サポート～
の様子。

市内で開催された「スマイル音楽まつり」にて、ラジオのサテライト放送に出演している様子。

５．今年度事業全体について

進捗状況	前年度、不十分であった外国人アンケートを継続して行い、結果をまとめた。また、前年度行った法人向けアンケートはターゲットを絞って実施したので、今年度は市内全域でアンケートを実施し、外国人等に対する日本語学習状況や支援協力の可能性、教室のニーズなどについて調査を行った。そのほか、多文化共生講座～日本語学習サポート～を実施し、日本語学習支援サポーターの発掘と育成を行った。また、すでに日本語学習支援に携わっている人に対しては日本語スキルアップ講座を山口県国際交流協会と協力し実施した。本市でCOVID-19のクラスターが発生したため、当初予定していた多文化共生講座～外国人サポート・病院編～は実施できなかったが、前年度の先進地視察、アンケート調査結果、講座の実施をふまえて、年度末には予定通りプレ日本語教室を二度実施することができた。COVID-19禍にあっても、来年度の日本語教室定期開催に向けていいスタートが切れた。
事業推進にあたり問題点と対応策	今年度はCOVID-19感染症予防対策のためプレ日本語教室の時間を予定よりも短縮することになった。今後、対面での授業だけでなくオンラインでの授業も視野に入れていかなくてはいけないが、オンライン開催前にまずは活用に向けて支援者に対するトレーニングの場を作る必要がある。 また、日本語教室の安定的な開催に向けて、支援者の発掘・養成は引き続き課題であるが、安心して楽しく活動に参加してもらえるよう、学習者へのサポートに加え、支援者向けのサポート体制を整えることも必要であることをプレ日本語教室を通して実感した。来年度の定期開催の際には、教室が始まる前に注意事項など情報共有ができる時間や、支援者のニーズを拾い上げる場を設定することなどについてもしっかり検討していく必要がある。教室運営には、支援者、学習者の意見やアイデアを積極的に取り入れ、教室に関わる人みんなで教室を運営していけるようにしていきたい。
成果	COVID-19禍においても、プレ日本語教室を予定通り実施し、来年度の定期開催に向けて幸先の良いスタートを切ることができた。具体的には以下の通りである。 ・アンケート調査により、今後の教室の運営に関わる協力者を発掘することができた。 ・コミュニティラジオ出演等の広報活動により、地域住民に外国人住民との交流の場があることを情報提供することができた。これにより交流や日本語学習支援希望者の発掘に繋がった。 ・各種講座の開催により、外国人等との日本語を通しての交流に関心のある人たちの見識をより深め、具体的な支援方法について知ってもらうことができた。 ・プレ日本語教室を2度実施したことで、外国人等と日本人参加者との日本語を通しての交流活動を行うことができ、外国人等及び日本人参加者双方から喜びの声が上がり、今後も引き続き継続してほしいという要望が出た。プレ教室については、既存の小野田日本語教室のスタイル（日本語学習支援型）とは異なる「交流・対話型」での運営にチャレンジできた。
地域の関係者との連携による効果	・商工会議所の協力により、市内全域においてアンケート調査を実施することができた。これにより、市内全域の商工会議所の会員に、多文化共生の取組を行っていることを周知することができた。 ・昨年度に引き続き山口県国際交流協会と協力して講座を実施することができた。これにより、既存の教室のボランティアの日本語学習支援のスキルアップができただけではなく、山陽の日本語教室の新規ボランティアも同講座に参加し、市内外の支援者同士で交流を図ることができた。
コーディネーターの主な活動	・アンケート調査の作成、実施、集計（15H） ・多文化共生講座～日本語サポーター編～開催準備・調整（12H） ・日本語教室開設、運営準備、調整（31H） ・その他（報告書等の内容の検討や作成、他機関との連絡・調整、広報活動、他市オンラインセミナー受講）（25H）
アドバイザーの主な助言	・他市の先進事例の紹介。 ・本事業の取組状況を市民や関係者へ広く周知すること。 ・本事業を進める上で、事業に当事者（支援者・外国人住民）の参加を進めること。関係団体や企業と連携をとり、日本語教室運営や多文化共生を進める体制の確立を行うこと。 ・日本語教室の来年度の開催にあたっては、教室内活動に留まらず、教室外活動も積極的に取り入れ、地域住民に外国人の存在を知ってもらうように努めること。 ・教室の定期開催にあたっては、実施後に質的・量的な面から分析を行うこと。 ・運営資金獲得にあたっては、企業や支援団体等の助成金等を活用すること。 ・アドバイザーの特性をいかし、各種講座の講師として招くことや地元の専門家、人材をうまく活用すること。
今後の課題	・今後は市協会やコーディネーター、日本語指導者が中心となって動くだけではなく、外国人等・日本人参加者を教室運営にうまく巻き込むこと。 ・連携機関や支援希望者との連絡を途絶えないようにし、関係を保ったり、連携を深めたりすること。 ・今後も継続して多文化共生講座や日本語サポーター講座、現役サポーター講座などの勉強会を開き、外国人等との日本語での交流を通じた多文化共生社会活動を推進すること。 ・教室運営資金の獲得のために、具体的な活動案を提示し、地元の企業から寄付や支援金を募ること。 ・外国人等及び地域住民に日本語教室の存在を周知し、教室内外にとらわれない活動を行うこと。
今後の予定	日本語教室を定期開催し、安定化に向けて以下の取り組みを行う。 ・教室の定期開催（月1回） ・教室外活動の実施（市国際交流協会主催の国際交流イベントや地域行事と日本語教室の活動を一部リンクさせる） ・人材発掘及び人材育成（多文化共生講座、新規日本語サポーター講座、現役日本語サポータースキルアップ講座） ・連携機関とのイベントの共同開催（山口県国際交流協会、地元支援団体、地元企業等）

本件担当　：　山陽小野田市国際交流協会事務局（山陽小野田市市民活動推進課）